

[特別活動]

集団運営能力と好ましい人間関係を育むための事例的研究

－児童の自治的な学年朝会の実践を通して－

田中 博徳*

1 問題の所在

井上ら (2006)¹⁾は、「初等教育において、リーダーシップとは、その気付きやスキルの向上を期待することは困難と考えられる。現状の初等教育では、多くの場合、教育プロセスの設定や児童をまとめて目的を達成するための役割は教師が担っている。そして児童にリーダーシップ能力を育成するカリキュラムは、ほとんど見られない。初等教育において、児童のリーダーシップ能力育成の良し悪しについては、今後、導入時期、教育手法等において、教育専門家による十分な議論が必要であろう。」と述べている。

しかし、実際には小学校において高学年となると、学校行事や児童会の運営など、様々な場面において児童のリーダーシップが期待される。小学校学習指導要領解説特別活動編 (2008)²⁾でも、「高学年の学校生活における発達的な特質を踏まえ、高学年としての役割や責任を果たしたり、最高学年としてリーダーシップを発揮したりする活動を多様に設定するとともに、多様な他者を認めることの大切さを実感できるようにしたり、友達の大切さを経験を通して理解できるようにしたりすることが大切である。」と述べている。そのため、高学年の担任は、全校の児童をまとめていくリーダーの育成を大きな柱として学年経営している。さらに、同特別活動編では、特別活動の教育的意義として、「第一は、集団活動を特質とすることである。この集団は、単なる遊び仲間の集団ではない。それぞれの集団には、活動目標があり、目標を達成するための方法や手段を全員で考え、共通の目標を目指して協力して実践していく集団である。」と述べている。小学校段階における必要なリーダーシップとは、活動目標がある集団を運営する能力 (以下、集団運営能力と呼ぶ。) であると考えられる。

松井 (1991)³⁾は、「そのときどきに適切な力が働かなかった場合、特定の個人にリーダーシップが集中し、多くの問題解決はリーダーに任せられ、依存や服従の心性が支配的になり、リーダーへの個人的欲求のみが優先してしまう集団になる。」と指摘している。つまり、集団運営能力を育成するためには、集団の一員として参画することができる協働的な人間関係を育む必要がある。まさに伊佐 (2005)⁴⁾が述べるように、「互いの考えを尊重し合い、認め合える人間関係」という好ましい関係が成立しなければ集団運営能力を育むことはできない。また、河村ら (2007)⁵⁾は、好ましい人間関係を構築するために、子どもたちが多く集う場面を意図的に作り出し、子どもたちに対して計画的な対人関係の体験学習を実施する必要があると述べ、CSS (Classroom Social Skills) を提唱している。しかし、SST (Social Skills Training) やCSSも継続的な取組が必要であり、私の経験ではそれらの取組に多くの授業時間をさくことが難しかった。そこで、集団運営能力の育成と好ましい人間関係づくりを育むことを目指し、継続的に実施でき児童が企画・運営する自治的な学年朝会を展開した。

学校現場では、学校行事を中核に据えて、児童に心構えを伝え、教師が企画・運営の仕方の段取りを組み集団運営能力を育てている実践は多い。しかし、次年度、児童会の中心を担おうとする5年生の児童に対し、集団を運営する意識の変容や学年集団が協働していく過程を分析した研究は見られない。集団を運営することに対して自信を高めていく教育的手法を分析すること、また、児童が集団として協働していく大切さを感じていく過程を分析することは、小学校現場において必要な研究である。

そこで本研究は、児童の自治的な学年朝会の運営を通して、集団運営能力の育成と好ましい人間関係の変容を分析することが目的である。

2 研究の方法

- (1) 調査対象 第5学年 児童52名
- (2) 調査期間 平成24年9月～平成24年12月
- (3) 研究デザイン

① 班分け

教職経験20年の教諭とともに、対人関係を考慮して5年生児童52名を、ひとつの班が4～5人となる12班を編制した。

* 魚沼市立堀之内小学校

各班が1回ずつ学年朝会を企画、運営するようにした。

② 学年朝会

ア 学年朝会の流れ

対象とした5年生の学年ネームは「元気学年」である。そこで、学年朝会での取組が来年度の力になるようにと願いを込めて、「元気の力」学年朝会と名付けた。(以下、学年朝会と呼ぶ。)

当校の朝活動の時間は、8時20分～8時40分の20分間である。学年朝会の流れは、表1の通り、担当班は5分前に集まり学年朝会の準備をする。朝のあいさつは、「今日も暑いですが、みんなの力でがんばりましょう。おはようございます。」というように、みんなへのメッセージを一言付け加えてするようにした。次に、当校で月ごとに決められている今月の歌を歌う。指揮者も担当班のメンバーが務めた。8時25分から10分間は、「みんなへのプレゼント」と名付け、担当班が企画したゲームをみんなで楽しむ時間とした。最後の「先生の話」は、担当班(以下、リーダーと呼ぶ。)のがんばりや周りの児童(以下、フォロアーと呼ぶ。)の参加の仕方の良かった所を話した。

イ 学年朝会当日までの流れ

学年朝会の当日までの流れは、表2の通りである。1週間前にリーダーのメンバーが集まり、学年朝会の企画と役割分担を話し合う。3日前には、話し合ってきた企画と役割分担を決定し、計画書を担任に提出するようにした。児童が自ら行う自治的な学年朝会を目指しているが、計画書を提出させる機会を設けて、進捗状況の確認と担任からのアドバイスができるようにした。前日には、リハーサルを行い学年朝会の最終確認をした。学年朝会後の業間休みに、リーダーはふり返りを、フォロアーはリーダーに対してメッセージカードを書いた。

表1 “元気の力” 学年朝会の流れ

時間	活動内容
8時15分	・学年朝会の準備
8時20分	・集合 ・朝のあいさつ ・今月の歌
8時25分	・みんなへのプレゼント
8時35分	・先生の話
8時40分	・解散

表2 学年朝会の当日までの流れ

期日	曜日	時間	活動内容
1週間前	金	昼休み	・企画と役割分担の話し合い
3日前	火	昼休み	・企画と役割分担の決定 ・計画書の提出
前日	木	昼休み	・リハーサル
当日	金	朝活動	・“元気の力” 学年朝会の運営
		業間休み	・ふり返り・メッセージカードの記入

3 研究の分析1 一集団運営能力の育成について

(1) 目的

児童の自治的な学年朝会の運営を通して、児童の集団運営能力を育む過程と意識の変容を明らかにする。

(2) 分析方法

① フィールドノート

リーダーが学年朝会を企画していく様子を、教師がメモしたフィールドノート⁶⁾から集団運営能力を育んでいく過程を分析する。

② 質問紙調査

事前と事後に質問紙調査を行い、集団運営能力への意識の変容を分析する。

*フィールドノートと質問紙調査ともEricssonの基準⁷⁾を用いて、教職経験15年と20年の教諭2名で分析する。

(3) 集団運営能力の育成についての結果

① フィールドノートの分析

学年朝会を行うに当たり、児童に「楽しさ」と「ねらい」を感じさせることが必要だと考えた。そこで、初めにオリエンテーションを開いた。教師から児童にプレゼント例となる2つのゲームを提示し、学年全体で楽しんだ後、以下のことを児童に語った。⁸⁾⁹⁾

毎週、5年生だけで学年朝会を行ってこんな楽しい時間が過ごせたら、元気学年がすてきな雰囲気になるよね。

この学年朝会を企画して運営するのはみなさんにしてほしいのです。企画・運営することを通して、来年度、最高学年になるための力を身に付けてほしいと思います。たった20分間の学年朝会ですが、みんなで考えたり準備したりと難しいかもしれません。でも、元気学年のみんなだったら大丈夫だと思います。“元気の力” 学年朝会を通して、最高学年になる準備をしていきましょう。

10分間の「みんなへのプレゼント」ではあるが、どの班も自分たちで企画するのは難しいと思い、教師があらかじめいくつかのゲームを用意していた。しかし、どの班もプレゼントを自分たちで考えることができた。(表3)

表3 学年朝会の担当班とプレゼント

回	月	日	曜	リーダー	プレゼント名	プレゼント内容
初	9	3	月	※オリエンテーション	・教師からのプレゼントとねらいの説明	・質問紙調査
1	9	14	金	竹-③	伝言ゲーム	お題の言葉を伝えていく。
2	9	21	金	松-①	仲間作りゲーム	生まれ月、□人家族、血液型などで仲間作りをする。
3	10	5	金	竹-②	フラフラ新聞ゲーム	新聞に何人乗れるかを競う。
4	10	12	金	松-②	ボールアップダウン	ボールを上下に送り、ゴールまでの速さを競う。

5	10	19	金	竹-①	ふらふらリレー	目をつむって10回回った後スタートしてリレーでつなぎ競う。
6	10	26	金	松-⑤	一筆書きお絵かき	お題を一筆書きする。
7	11	2	金	松-③	絵しりとり	絵を描いてしりとりをしていく。
8	11	9	金	松-⑥	漢字しりとり	お題の漢字から熟語でしりとりをしていく。
9	11	16	金	竹-⑥	じゃんけん列車	曲が止まったらジャンケンをして人間列車になっていく。
10	11	30	金	竹-④	いくつ書けるかな?	動物、都道府県など時間内にたくさん書く。
11	12	7	金	松-④	ジェスチャーで当てろ	頭に付けたお題を周りの児童がジェスチャーをして当てる。
12	12	14	金	竹-⑤	デンジャラスゲーム	人がイスになってどんどん座っていく。
終	12	17	月		※ふり返り ・質問紙調査 ・ふり返りカードの記入	

・当校は学級を松組と竹組と表している。竹-③は竹組の3班ということである。

フィールドノート1は、一番最初に学年朝会を行う竹組の3班が話し合っている様子である。

①の通り、オリエンテーションを行って3日後にリーダーである竹組の3班が自主的に話し合いを始めている。児童の学年朝会に対する意気込みの高さを感じた。そして、企画の進み具合を教師が尋ねると、②のように「決まっています。」と力強い返事が返ってきた。言葉の中には、「先生、心配しないでください。先生に言われなくても、大丈夫です。」という気持ちが伝わってきた。

学年朝会の「先生の話」(表1)の中で、竹組の3班の学年朝会に対する意気込みの高さと自分たちでプレゼントを考えスムーズに役割分担も決めていたことを全体に話した。リーダーとして進んで活動していこうとする称賛できる姿が、学年全体に伝わった。この姿が、どの班もリーダーとなったときには、自分たちでプレゼントを考えていこうとする活動につながった。

フィールドノート2は、松組の5班がプレゼント名「一筆書きお絵かき」を考え、企画書を提出してきた様子である。

松組の5班の前までのプレゼントは、仲間作りやリレー形式のゲームであった。これらのリーダーも、全体に分かるように教室の黒板に得点の表を書くなど、事前準備をしていた。この松組の5班も、自分たちが考えたプレゼントをスムーズに行うためにはどうしたらいいだろうと話し合う中で、事前に各班に配る用紙を用意しておきたいと考え、③のように計画書の提出と同時に依頼してきた。

全体をどうやったらスムーズに動かすことができるかを想像し準備していることを「先生の話」の中で全体に伝え称賛した。

他のリーダーのときも、「リーダーのみんなで協力して話し合っていた。」「使う新聞をあらかじめ用意していた。」など準備の様子や「みんなを座らせて静かにさせてから説明をしていた。」「リーダーのメンバーが1カ所に固まらず、分担をして全体を見ていた。」など学年朝会の運営がスムーズにいくように意識している様子を「先生の話」の中で全体に伝えた。

このように、教師がリーダーとなったときの企画・運営している様子を評価し、学年朝会の中でフィードバックすることにより、リーダーとして集団を運営していく方法を全体で共有することができた。児童は、リーダーとして実際に企画・運営を行ったり、他のリーダーのよさを共有したりすることを通して、集団を運営していく方法を学ぶことができた。

② 質問紙調査

リーダーが学年朝会を企画し運営することを通して、集団運営能力において児童の意識がどう変容したかを、事前と事後に行った質問紙調査から分析した。(表4)

表4 集団運営能力に関する質問内容

No.	質問内容	備考
1	班活動に協力して企画・運営していくことは楽しいです。	・No.1～5の質問は、4件法で行った。 4…そう思う 3…少し思う 2…あまり思わない 1…全く思わない ・No.6の質問は、自由記述にした。
2	班活動において、自分から進んで活動しようとしています。	
3	班のリーダーとなって、まとめていくことができます。	
4	みんなの前で、発表したり進行したりすることができます。	
5	来年度、元気学年が全校のリーダーとなっていけると思いませんか?	
6	全校のリーダーになるために、何が必要だと思いますか(自由記述)	

フィールドノート1

9月6日(木) 昼休み ①

今日は、1時間の長い昼休みである。5年竹組の教室で最初のリーダーとなる竹組の3班の4人が集まって話し合っている。

T: 学年朝会のことを話し合っているの?

A: はい。

T: 何をプレゼントするか決まりましたか?

A: 伝言ゲームをすることに決まりました。今どんな問題を出すか決めています。②

T: あっそう。すごいねー。役割分担も決まっているの?

B: はい、もう決まっています。企画書を楽しみにしててください。②

この班はだいじょうだと思い、その場を去った。

フィールドノート2

10月30日(火) 昼休み

竹組の教室で児童の自学ノートを見てみると、松組の5班の4人が寄ってきた。

C: 先生、学年朝会の企画書です。それで、お願いがあるんですが。

T: どれどれ、「一筆書きお絵かき」をするんだね。おもしろそうだねー。どうするの?

D: 私たちが出すお題を代表の人が一筆書きをして班の人が当てるんです。

C: それで、描く用紙を用意してほしいので、印刷してもらえますか?③

T: 会をスムーズに進めるために、前もって準備することはすばらしいですね。この企画でいきましょう。

表5に示したように、質問2.3.4に対して、1%水準で有意に向上した。全員がリーダーの立場となり学年朝会を企画し運営したことを通して、「班活動において自分から進んで活動すること」や「班のリーダーとなって、まとめていくこと」、「みんなの前で、発表したり進行したりすること」に対して肯定的な気持ちになった。また、質問5に対しては5%水準で有意に向上した。来年度、最高学年となって全校のリーダーとなっていく自信がついたと言える。

つまり、児童は学年朝会を通して、全員がリーダーの立場を経験することで集団運営能力に対する自信が高まったことが明らかになった。

表5 集団運営能力に関する分散分析の結果

1 班活動に協力して企画・運営していくことは楽しいです。	2 班活動において、自分から進んで活動しようとしています。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>N</th> <th>Mean</th> <th>S.D.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前</td> <td>52</td> <td>3.4808</td> <td>0.6352</td> </tr> <tr> <td>事後</td> <td>52</td> <td>3.5962</td> <td>0.6282</td> </tr> </tbody> </table>		N	Mean	S.D.	事前	52	3.4808	0.6352	事後	52	3.5962	0.6282	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>N</th> <th>Mean</th> <th>S.D.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前</td> <td>52</td> <td>2.7500</td> <td>0.7037</td> </tr> <tr> <td>事後</td> <td>52</td> <td>3.2308</td> <td>0.6390</td> </tr> </tbody> </table>		N	Mean	S.D.	事前	52	2.7500	0.7037	事後	52	3.2308	0.6390
	N	Mean	S.D.																						
事前	52	3.4808	0.6352																						
事後	52	3.5962	0.6282																						
	N	Mean	S.D.																						
事前	52	2.7500	0.7037																						
事後	52	3.2308	0.6390																						
F(1,51)=1.51n.s.		F(1,51)=16.58*																							
3 班のリーダーとなって、まとめていくことができます。	4 みんなの前で、発表したり進行したりすることができます。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>N</th> <th>Mean</th> <th>S.D.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前</td> <td>52</td> <td>2.3077</td> <td>0.7478</td> </tr> <tr> <td>事後</td> <td>52</td> <td>2.9038</td> <td>0.7141</td> </tr> </tbody> </table>		N	Mean	S.D.	事前	52	2.3077	0.7478	事後	52	2.9038	0.7141	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>N</th> <th>Mean</th> <th>S.D.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前</td> <td>52</td> <td>2.3654</td> <td>0.8777</td> </tr> <tr> <td>事後</td> <td>52</td> <td>3.0192</td> <td>0.6042</td> </tr> </tbody> </table>		N	Mean	S.D.	事前	52	2.3654	0.8777	事後	52	3.0192	0.6042
	N	Mean	S.D.																						
事前	52	2.3077	0.7478																						
事後	52	2.9038	0.7141																						
	N	Mean	S.D.																						
事前	52	2.3654	0.8777																						
事後	52	3.0192	0.6042																						
F(1,51)=27.30**		F(1,51)=19.63*																							
5 来年度、元気学年が全校のリーダーとなっていけると思いますか？																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>N</th> <th>Mean</th> <th>S.D.</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前</td> <td>52</td> <td>2.9231</td> <td>0.8258</td> </tr> <tr> <td>事後</td> <td>52</td> <td>3.2308</td> <td>0.7236</td> </tr> </tbody> </table>					N	Mean	S.D.	事前	52	2.9231	0.8258	事後	52	3.2308	0.7236										
	N	Mean	S.D.																						
事前	52	2.9231	0.8258																						
事後	52	3.2308	0.7236																						
F(1,51)=6.43*																									

学年朝会を通して、具体的にどのような意識の変容があったか、自由記述させた6の質問から、さらに分析を進めた。

結果、学年朝会を始める前までは、「自信をもつこと」「勇気をもつこと」「恥ずかしがらないこと」「しっかりと話すこと」と自分の心が成長しなければならないという「個人の成長」が必要だと感じていた。事後は、「協力すること」「思いやること」と多くの児童が書いていた。学年朝会を班のみみんなで話し合い活動した思いの表れだと考える。「責任をもつこと」「積極的に活動すること」は、このように活動していかないとみんなに迷惑がかかるからという意味の記述である。学年朝会を通して「集団への意識」に変容した。

つまり、学年朝会を協力して企画し運営することによって、児童のリーダーの捉え方が「私が～変わらなければならない。」という「Iの視点」から、「みんなのために～する。」という「Weの視点」へ変容したと言える。この「みんなのために！」という意識の変容が、集団を運営していこうとする意欲的な行動につながったと考える。(図1)

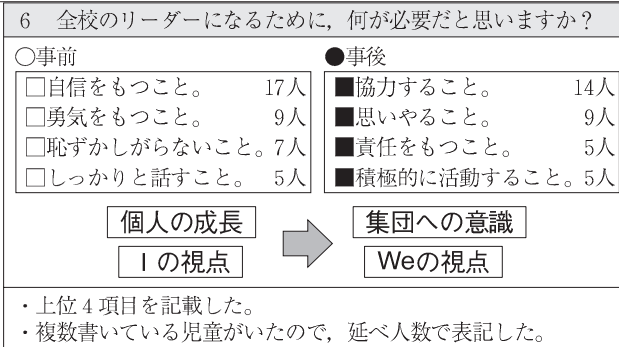


図1 リーダー像の意識の変容

4 研究の分析2 一好ましい人間関係の育成について

(1) 目的

児童による自治的な学年朝会の運営を通して、好ましい人間関係を構築していく児童の姿と変容を明らかにする。

(2) 分析方法

① ソーシャルスキルの視点

学年朝会をソーシャルスキルの視点からとらえ、児童のふり返りカードと関連させて分析し、好ましい人間関係が構築していく過程を明らかにする。

② 質問紙調査

事前と事後に質問紙調査を行い、好ましい人間関係の変容を分析する。

*ふり返りカードと質問紙調査ともEricssonの基準¹⁰⁾を用いて、教職経験15年と20年の教諭2名で分析する。

(3) 好ましい人間関係の構築についての結果

① ソーシャルスキルの視点からみる学年朝会の分析

河村ら(2007)¹¹⁾は、ソーシャルスキルについて、「建設的な対人関係や集団生活・活動の体験を通して、子どもたちは人とかかわる知識と技術、社会にコミットしていく知識と技術を身につけていく。そしてそれは、新たな人との付き合いや、社会環境に向かうときの大きな力となる。多くの人と仲良く交流し、自分らしく主体的に活動できている子ど

もは、このように人とかかわったり、社会へコミットしていくときの知識と技術が高い。」と述べている。つまり、学年朝会など多くの児童を動かすときに、集団運営能力を高めるだけでなく、学年全体の好ましい人間関係の構築が必要である。河村ら(2008)¹²⁾の『みんなのやくそくノート』には、表6の通り学校で身に付けさせたい9つのCSS(Classroom Social Skills)が収録されている。学年朝会をこれらのスキルでとらえてみると、全ての要素が含まれていた。

①のスキル学年朝会は、「今日も暑いですが、みんなの力でがんばりましょう。おはようございます。」というように、みんなへのメッセージを一言付け加えた朝のあいさつから始まる。

②のスキル例えば、11回目の「ジェスチャーで当てろ」では、班の仲間が絶えずジェスチャーをするも、代表者がお題を当てることができなかった。このとき、「ごめん。難しかったよ。」と笑いながら互いに許し合う姿があった。

③のスキル「先生の話」の中で、リーダーがみんなから感謝の拍手をもらう。また、フォロワーはリーダーに「ありがとうメッセージ」を届けた。リーダーは、廊下に掲示したフォロワーからのメッセージを読んでいた。

④.⑤.⑦.⑨のスキルこれらのスキルは、常にプレゼントの中で学ぶことができる。リーダーはプレゼントのゲーム説明をするときに、④の常にみんなに聞こえる声で話さなければならない。一方⑤についても、フォロワーはプレゼントのゲーム説明を最後まで聞かなければルールが分からなくなる。また、みんなが⑦であるプレゼントのゲームルールを守り学年全体で楽しむことができた。⑨については、プレゼントの内容(表3)を見ると、「他の班と競い合うゲーム型」と「みんなで達成する仲間づくりゲーム型」に分けられる。どのゲームにおいても、友達と喜び合い、言葉や身ぶりで表現していた姿があった。

⑥のスキル10回目の「いくつ書けるかな?」のプレゼントゲームは、みんなで相談しなければたくさんの答えを書くことができない。フォロワーは各班ごとに自然と円の隊形になり、頭を付き合わせて班のみんなと相談しながらゲームを進めている姿があった。他のゲームでも互いに意見を出し合い取り組む姿があった。

⑧のスキル研究の分析1の通り、リーダーのメンバーで協力して活動した姿で表れていた。

さらに、『みんなのやくそくノート』に収録されていないが、好ましい人間関係の構築には必要であると考えられる児童の姿(スキル)も、学年朝会を通して多く見られた。(表7)

⑩のスキルプレゼントの中で互いに「がんばれ」などと応援をしたり、「イエーイ」というかけ声があり、みんなで盛り上がる場面があった。

⑪のスキル「仲間作りゲーム」や「ジャンケン列車」では、区別しないで自分から友達を誘い合っていた。

⑫のスキル3回目の「フラフラ新聞ゲーム」では、狭い新聞にたくさんの友達が入れるように支え合いながら、友達と身体的な触れ合いがあった。体育でも「体ほぐし運動」があるように、この友達の温かさを感じる身体的な触れ合いは、好ましい人間関係の構築には大切な要素であると考えられる。

⑬のスキル学年朝会が進につれ、8時20分の開始時間の5分前にフォロワーが集まるようになった。まさに、⑬のみんなのためになることは進んで実行するである。学年朝会を担当した経験を通して、「協力するフォロワーが大切であり、そのためにはみんなが早く集まって整列した方がいい。」と感じたのである。これらのスキルが生かされ、全校で集まる全校朝会や児童朝会でも、自然と5年生が一番早く並べるようになった。学年朝会の経験が実際の学校生活に波及したひとつの大きな成果であった。

このように学年朝会には、児童に身に付けさせたいCSSの要素が数多く含まれていたことが分かった。児童は、学年朝会を通して、継続的にCSSを学ぶことができた。そこで、最終日に書いたふり返りカードから、学年朝会で学んだCSSが好ましい人間関係にどう影響したかを分析した。自由記述した「学年朝会は、元気学年みんなにとってどうでしたか?」を分析すると、表8の通り5つのカテゴリーに分けることができた。

表8 ふり返りのカテゴリー

カテゴリー	記述内容	延べ人数(人)
協力	みんなが協力して学年朝会を作り上げていた。	13
交流	学級も男女も関係なく、普段話さない人とも、みんな一緒に楽しむことができた。	9
感心	次々に新しいプレゼントを考えていた。他の班のプレゼントの工夫に感心した。	23
感謝	みんなが仲良くなるプレゼントを企画してくれた。担当の班に感謝したい。	6
愉快	みんなのプレゼントが楽しかった。	18

表6 『みんなのやくそくノート』のスキル

No.	スキル一覧
①	「おはよう」「さようなら」という基本的なあいさつをする
②	何か失敗したとき、すぐに「ごめんなさい」と言う
③	何かしてもらったときに、すぐに「ありがとう」と言う
④	相手に聞こえる声で話す
⑤	友達が話しているときは、その話を最後まで聞く
⑥	みんなと同じくらい話す
⑦	みんなで決めたルールは守る
⑧	係や当番の仕事は最後までやり遂げる
⑨	うれしいときや楽しいときは、言葉や身ぶりで表現する

表7 その他に見られたスキル

⑩	友達に応援やかけ声をかける
⑪	区別しないで自分から友達を誘い合う
⑫	友達と身体的に触れ合う
⑬	みんなのためになることは進んで実行する

児童は、学年朝会を「協力」「交流」「感心」「感謝」「愉快」という互いのよさを見つけ合う肯定的な場としてとらえていた。「学年朝会はずまらなかった。」など否定的な内容を記述した児童は一人もいなかった。

つまり、図2の通り、「リーダーの立場」と「フォロワーの立場」の両方を経験することで、それぞれの立場の思いを共有した。さらに児童は、学年朝会を通して様々なCSSを学び身に付けることができた。これらのスキルを通して互いに触れ合う中で、「協力」「交流」「感心」「感謝」「愉快」を感じ、好ましい人間関係を構築することができたと言える。この好ましい人間関係が、全校朝会や児童朝会などで自然と5年生が一番早く並べるようになったという、学校生活に生かす行動になったと考える。

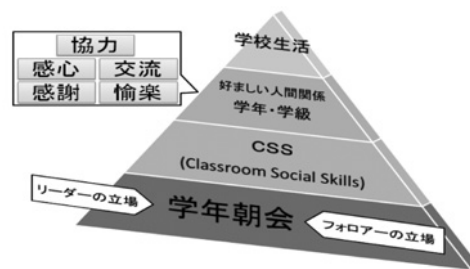


図2 好ましい人間関係の構築

② 質問紙調査

事前と事後に質問紙調査を行い、好ましい人間関係の変容を分析した。事前と事後で分散分析をした結果、1の「みんなと活動することが楽しいです。」に有意差は認められなかった。2の「みんなと協力して取り組んでいます。」では、5%水準で有意に向上した。質問紙調査から、学年朝会を通して互いに協力しようとする好ましい人間関係の構築されたということが明らかになった。(表9)

表9 好ましい人間関係の構築に関する分散分析の結果

1 みんなと活動することが楽しいです。				2 みんなと協力して取り組んでいます。				備考
	N	Mean	S.D.		N	Mean	S.D.	
事前	52	3.6154	0.6837	事前	52	3.3077	0.7478	・質問は4件法で行った。 4…そう思う 3…少し思う 2…あまり思わない 1…全く思わない
事後	52	3.7308	0.4850	事後	52	3.5577	0.6329	
$F(1,51)=1.40n.s.$				$F(1,51)=6.44^*$				

5 まとめ

学年朝会を企画し運営することを通して、児童は集団を運営していく方法を学ぶことができた。班のみんなと協力して学年朝会を進めたり教師やフォロワーの励ましを受けたりする中で、リーダーの捉え方が、「私が～変わらなければならない。」というIの視点から、「みんなのために～する。」というWeの視点へ変容した。この意識の変容が、意欲的な行動となり集団を運営していく自信につながった。また、学年朝会を通して、「リーダーの立場」と「フォロワーの立場」の両方を経験することで、それぞれの立場の思いを共有することができた。さらに、児童は学年朝会で、継続してCSSを学ぶことができた。学んだスキルを通して互いに触れ合う中で、相手を尊重する好ましい人間関係が構築されていくことが明らかになった。

つまり、集団運営能力の育成と好ましい人間関係を育む教育的手法として、自治的で継続的に行うことができる学年朝会は効果的であると言える。

この学年の児童は、その後、「6年生ありがとう会」の企画・運営や卒業式や始業式の準備で全校の代表となって活躍した。また、現在は最高学年である6年生として、児童会の中心となり集団を運営している。今後、5年生で行った学年朝会が6年生の児童会運営にどう影響したか、その効果を追跡調査していきたい。

【参考・引用文献】

- 1) 井上武志, 五百井俊宏, 小川善史, 上野由美子, 山本利一, 木野泰伸, 松江登久, 池田貴恵子, 小田望由紀, 太田一平: 「初等プロジェクトマネジメント教育の実践とその評価について」プロジェクトマネジメント学会研究発表大会予稿集 2006 (春季), pp.442-447, 2006.
- 2) 文部科学省: 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 p20, 2008.
- 3) 松井紀和 (編著): 『小集団体験 (Group Dynamics) - 出会いと交流のプロセス -』 牧野出版 1991.
- 4) 伊佐貢一: 「好ましい人間関係を結ぶ力の育成: 思いやり育成プログラム (VLF: Voices of Love and Freedom) を適用した道徳授業を通して」教育実践研究 15, pp.145-150, 2005.
- 5) 河村茂雄, 品田笑子, 藤村一夫: 『学級ソーシャルスキル』 図書文化社 2007.
- 6) R. エマーソン, R. フレッツ, L. ショウ (著), 佐藤郁哉, 好井裕明, 山田富秋 (訳) 『方法としてのフィールドノート - 現地取材から物語作成まで -』 新曜社 1998.
- 7) Ericsson, KA. & Simon, H: *Protocol analysis Verbal as data*, MIT Press, 1984.
- 8) 蘭千壽, 古城和敬 (編著): 『教師と教育集団の心理』 誠信書房 1996.
- 9) 近藤邦夫: 『教師と子どもの関係づくり - 学校の臨床心理学』 東京大学出版会 1994.
- 10) 前掲書7)
- 11) 前掲書5)
- 12) 河村茂雄, 品田笑子: 『みんなのやくそくノート』 図書文化社 2008.